

飛鳥資料館のみどころ (6)

― 秋期特別展示「古代の梵鐘」―

飛鳥資料館では、毎年春と秋の2回、特別展示をおこなっています。今年度の春期特別展示は奈文研ニュース12号でご紹介したように「飛鳥の湯屋」と題しておこないました。今回の秋期特別展示は、「古代の梵鐘」と題して、10月8日(金)から11月28日(日)の期間(会期中無休)で開催します。

当館は飛鳥地方の歴史と文化を紹介する歴史系博物館として昭和50年に開館し、これまで飛鳥時代にかかわる文化財や発掘資料の公開と展示をおこなってきました。また、平成13年度からは東アジアの金属工芸史の研究をテーマに調査研究を進めております。今回、飛鳥時代・奈良時代の文化の理解と調査成果の公開を目的として、飛鳥時代・奈良時代の梵鐘をテーマに展覧会を企画いたしました。

飛鳥寺の建立(588年発願)にはじまる仏教文化の確立は、文化史上にも様々の変化をもたらしました。そのなかに寺院の建立にともなう金属工芸品の登場もあげられるでしょう。梵鐘もそのひとつです。技術的にみても梵鐘をはじめとする大形の青銅鑄造品は、飛鳥寺の建立に参加した鑪盤工

にはじまる技術と推定されます。ただ、寺院のみにとどまらず、時報鐘として漏刻での使用が斉明朝(655―661)にみられるとともに、天武朝(673―686)には大鐘の貢献の事例も知られ、飛鳥時代社会の中で一定の役割を示していたといえるでしょう。

今回の展示では、飛鳥時代・奈良時代の梵鐘を金属工芸史の中で位置づけ展示をおこなうとともに、飛鳥時代から奈良時代にかけての梵鐘の変遷を、実際の梵鐘を展示することによって理解していただき、仏教導入期の日本における青銅製品生産の実態を明らかにすることを目的としています。また、梵鐘を吊る建物・鐘楼について、写真パネルで紹介するとともに東大寺鐘楼模型(1/10)も展示いたします。

展覧会を記念して国際シンポジウム「東アジアの梵鐘」を下記日程にて開催しますので、あわせてご来聴いただければ幸いです。皆様のご来館をお待ちいたしております。

(飛鳥資料館 西山和宏)

<国際シンポジウム>

- 11月5日(金)午前10時から(参加費無料)
会場／橿原ロイヤルホテル